

戦時下の新潟港

■日満航路と新潟港

大正時代末期に、近代的な港湾施設を整備した新潟港は、対外貿易を本格的に開始しました。そして、昭和6（1931）年、新潟と北朝鮮を結ぶ航路が開設されます。同年9月に満州事変が勃発し、翌年には「満州国」が建国、また上越線が開通するなど、新潟港は「満州国」の首都新京（現在の長春）と東京を結ぶ最短距離の港として注目を集めました。日本と北朝鮮を結ぶ航路は、満州への重要な連絡路となり、「日満航路」と呼ばれました。

昭和10（1935）年、政府の命令航路になると、6月には第一船として嘉義丸が就航します。その後、昭和12（1937）年8月には満州丸（嘉義丸と交代）、同年9月には新造船の月山丸が就航しました。

昭和13（1938）年の航路案内（右資料）には、新潟港と羅津港（北朝鮮）の定期発着便は月に8本運航され、所要時間は約48時間となっていました。さらに、12月には、新潟鮮満支案内所も開設され、大陸の玄関口として発展を遂げました。ここからは、満蒙開拓団や青少年義勇軍も満州に向けて出発していきました。

表着發期定期路航鮮北一潟新

行	地	内	行	滿	鮮	港
新	清	羅	羅	清	新	名
潟	津	津	津	津	潟	時
前	後	後	後	前	後	刻
八〇〇	五〇〇	一〇〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	船
						名
七	五	五	四	四	二	◎月滿
日	日	日	日	日	日	山
十一	九	九	七	七	五	洲
日	日	日	日	日	日	丸
十五	十三	十三	十一	十一	九	九
日	日	日	日	日	日	◎印は月山丸定期(自四月)
十九	十七	十七	十五	十五	十三	(至十一月)
日	日	日	日	日	日	
廿二	二十	二十	十九	十九	十七	
日	日	日	日	日	日	
廿六	廿四	廿四	廿三	廿三	廿一	
日	日	日	日	日	日	
三十	廿八	廿八	廿六	廿六	廿四	
日	日	日	日	日	日	
三	一	一	三十	三十	廿八	
日	日	日	日	日	日	

◎自十一月至三月冬期間は別表通り月六航海であります。

新潟—北朝鮮航路定期発着表
(当館蔵)

まんもうかいたくせいしょうねんぎゆうぐん

■満蒙開拓青少年義勇軍

満蒙開拓政策の一環として、数え年で16歳から19歳の青少年を満州国へ開拓民として送出するために組織されたのが、満蒙開拓青少年義勇軍です。昭和13年1月に、政府が募集を開始し、各府県に人数を割り当てました。新潟県は、市町村や学校に対して募集の通知を行いました。県や市は、壮行会を開くなどして、送出のための宣伝活動を大々的に行います。募集後、選抜された青少年たちは、茨城県の内原訓練所や満州の現地訓練所で訓練を積み、最終的には、現地の開拓団として入植しました。新潟港は、満蒙開拓団や青少年義勇軍の出発地の一つとして重要な役割を果たしました。